

試験日 : 2025 年 9 月 13 日 (土)

入試種別 : 大学院入学試験(4 月入学)修士課程 秋期試験 一般入試

学部・研究科 : 文学研究科 真宗学専攻

科目名 : 専門科目

解答又は解答例

1

(1) つつしんで真実の証を顕さば、すなはちこれ利他円満の妙位、無上涅槃の極果なり。すなはちこれ必至滅度の願(第十一願)より出でたり。また証大涅槃の願と名づくるなり。しかるに煩惱成就の凡夫、生死罪濁の群萌、往相回向の心行を獲れば、即のときに大乘正定聚の数に入るなり。正定聚に住するがゆゑに、かならず滅度に至る。かならず滅度に至るはすなはちこれ常樂なり。常樂はすなはちこれ畢竟寂滅なり。寂滅はすなはちこれ無上涅槃なり。無上涅槃はすなはちこれ無為法身なり。無為法身はすなはちこれ実相なり。実相はすなはちこれ法性なり。法性はすなはちこれ真如なり。真如はすなはちこれ一如なり。しかれば弥陀如来は如より来生して、報・応・化、種々の身を示し現じたまふなり。

(2) 解答例：つつしんで、真実の証を顕せば、それは他力によって与えられる功德の満ちた仏の位であり、この上ないさとという果である。この証は必至滅度の願、第十一願より出てきたものである。この願はまた証大涅槃の願とも名づけることができる。さて、煩惱にまみれ、迷いの罪に汚れた衆生が、仏より回向された信と行とを得ると、たちどころに大乘の正定聚の位に入るのである。正定聚の位にあるから、浄土に生まれて必ずさとりに至る。必ずさとりに至るということは、常樂我淨という徳をそなえることである。この常樂我淨の徳をそなえるということは煩惱を滅し尽くした境地、すなわち畢竟寂滅の住することである。この寂滅はこの上ないさと、すなわち無上涅槃である。この無上涅槃は生滅変化を超えた真実そのもの、すなわち実相である。この実相はすべてのものの変わることをない本性、すなわち法性である。この法性はすべてのものの絶対究極の在り方、すなわち、真如である。この真如は相を超えた絶対の一、すなわち一如である。そして阿弥陀仏は、この一如よりかたちを現わして、報身、応身、化身などのさまざまなすがたを示してくださるのである。

(3) 解答例：「正定聚」とは、必ずさとりを開いて仏に成ることが正(まさ)しく定まっているものから、仲間のこと。仏教一般では菩薩五十二位の修道階位のうち初地もしくは八地をいう。一生補処の位とすることもある。「滅度」とは涅槃を意味する。度はわたるという意で、生死の苦悩を「滅」して彼岸、さとりの世界に「渡」るから

「滅度」という。親鸞教義において現生正定聚とは、他力の信心をえた念仏者が平生の信の一念に与えられる利益である。また彼土滅度とは、現生正定聚、今ここで他力の信をえてまさしく仏に成ることが定まったものながら、臨終に必ず弥陀の本願力によって迷いを滅し、さとの彼岸に渡ることができることである。これらを現当二益ともいう。

(3) 解答例：「真如」とは仏教においてタタター (tathatā) の意識であり、かくあること。衆生の虚妄分別を超えた存在のありのままのすがたを意味する。形相を超えた絶対究極の在り方である。親鸞は真如のはたらきについて、「証文類」序において、この上ない涅槃とは真如であり、真如とは「あらゆる差別的な相を越えた絶対の一、すなわち一如である。阿弥陀仏は、この一如よりかたちを現わして、報身、応身、化身などのさまざまなすがたを示してくださるのである」と明かしている。真如は静かにとどまっているものではなく、煩惱具足の凡夫を救わんがために、真如より阿弥陀仏がかたちを現わして、報身、応身、化身などのさまざまなすがたを示し、全ての衆生を誰一人漏れることなく救わんとする仏のさとのダイナミックなはたらきであると受けとめているといえる。

2

(1) 善導独り仏の正意をあきらかにせり。定散と逆悪とを矜哀して、光明・名号因縁を顕す。本願の大智海に開入すれば、行者まさしく金剛心を受けしめ、慶喜の一念相応してのち、韋提と等しく三忍を獲、すなはち法性の常樂を証せしむといへり。

(2) 解答例：善導大師はただ独り、これまでの誤った説を正して仏の教えの真意を明らかにされた。善惡のすべての人を哀れんで、光明と名号が縁となり因となってお救いくださると示された。「本願の大いなる智慧の海に入れば、行者や他力の信を回向され、如来の本願にかなうことができたそのときに、韋提希と同じく喜忍・悟忍・信忍の三忍を得て、浄土に往生してただちにさとりを開く」と述べられた。

(3) 解答例：「定散」とは、定善と散善の二善を意味する。『観無量寿経』に説かれる教えであり、善導は『観無量寿経疏』玄義分に「『観経』の定散二門これなり」と記している。定善とは心を一つの対象に集中し、雑念を払い心を凝らして仏や浄土などを観察する善行のことで、善導は「玄義分」に「定即息慮以凝心」（化身土巻引用）と説く。散善は、散心のままで、悪を止め善を修める善行であり、世福・戒福・行福の三福がある。善導は「玄義分」に「散即廃惡以修善」（化身土巻引用）と説く。

(4) 解答例：善導は唐の時代に活躍された中国浄土教の大成者であり、光明寺の和尚などと呼ばれる。善導は西方浄土変相図をみて浄土教に歸し、のち玄中寺に道綽を

訪ねてそのもとで学んだ。道綽の示寂後、長安にでて光明寺などで念仏弘通につとめた。善導教義の意義は、『観経疏』を著し、古今楷定、すなわち、『観経』の教えの要を明らかにし、従来から今にいたる聖道門諸師の『観経』解釈の誤りをあらためて、規範とすべき正しい解釈を確定したところにある。善導は、曇鸞と道綽の伝統を承けて、浄土門の立場から『観経』を解明し、煩惱具足の凡夫が弥陀の本願を信じ、弥陀の本願の満ちた名号を称えることによってみな必ず極楽浄土、弥陀の報土に往生できることを明らかにしたことである。

当該問題は、受験生の今後の研究に必要となる専門分野に関する知識を問うものである。採点は以下の点を踏まえて総合的に評価する。

- 設問の指示に従い回答していること。
- 回答において、漢文の読解力とその意味を読み取ることができること。
- 仏教の基本的用語の意味をふまえつつ、親鸞の教義に基づいて、その解釈を論じていること。
- なお不適切な語彙の使用や、誤字、脱字は減点を行う。